

## 大分南警察署協議会

### 第3回会議の開催状況

#### 第1 開催月日

令和4年11月25日（金）

#### 第2 出席者

協議会 委員 9名

警察署 署長、副署長、地域交通官、総務課長、地域課長、交通課長 6名

#### 第3 議事の概要

##### 1 業務説明等

警察署から

- ・ 管内概況
- ・ 令和5年速度取締り指針

について説明がなされた。

##### 2 諮問事項の説明等

警察署から諮問事項である「若手警察職員の育成方策」について説明がなされた。その後、若手警察官による職務質問訓練を視察した。

##### 3 諮問事項に関する意見

(1) 委員から「職務質問訓練を見ての感想は、なぜ職務質問をするのか等の法的根拠を、職務質問開始時に説明すれば、スムーズに行くのではないかと思った。若い人を育てるのは、現場を体験させるしかない。もしも失敗したときは、若い人がうまく自信を回復できるよう指導する者が必要である」旨の意見がなされ、警察署から「犯人であると分かっていたらスムーズに行くが、何かしているのではないかという状況の場合、どういう風に会得するかは体験しかない。失敗を恐れずやることが大事であり、失敗した場合は必ずフォローしている」旨の回答がなされた。

(2) 委員から「大半の市民は善良な市民である。スタートが高圧的であれば、なぜ答えなければならないのかと思う。善良な市民も嫌がり、本当の犯人も嫌がるので、見極めが非常に難しい。スタートはやんわりとした感じで行い、そこで何か隠すなどしたら、強く出る。見極めのところでは、接客のようにやんわり出る方がいいのではないかと思う」旨の意見がなされた。

(3) 委員から「教育されて立派な警察官になる。どの職場もそうだが、離職率が

上がっている時代になった。折角入ったのにすぐやめると、今まで教育したのがなんだったのかとがっかりくる。民間の企業は、働き方改革で、有給の取得、残業時間の短縮など、無理矢理にでもやっている。警察は長時間労働、休日出勤のイメージが強いので、働き方改革をもっと推進すべきだと思う」旨の意見がなされた。

- (4) 委員から「私どもも会社で相手がどういう風に考えているか、どう進めていけばいいのかということについてロールプレイングをやっている。ポイントは、いろんなパターンを考えることである。相手の態度が横暴な場合などのパターンをいくつも準備して、何度も何度もやることが大切。相手によって対応を考える訓練をすることが大事である。何事もそうであるが、自信があれば余裕をもって対応できると思うが、自分に自信がなくなるとどうしても後手に回ったり、オロオロすることになりやすい。そういった自信をつけさせる。また、自分がうまくいかなくなった時に、どのように立て直すか、もう一人いる場合どういう風に手助けをするのか、いろんなパターンに対応するには訓練しかない。警察官は万能ではないので、どのような時に言葉遣いや冷静さを欠くのか知ることでも大事であるし、いざという時に困らないのではないか」旨の意見がなされた。